

常磐公園 植栽計画市民ワークショップ(第3回) 会議録

- 日時 : 平成 26 年 12 月 2 日 (火) 18:30 ~ 20:15
会場 : 旭川市保健所 1 階講座室
出席者 : 地域住民 12 名
 : 専門家 3 名 (オブザーバー)
 : 事務局 7 名 (旭川市公園みどり課 3 名、(株) 建設技術研究所 4 名)
配付資料 : 議事次第
 : 第 3 回 常磐公園 植栽計画市民ワークショップ 説明資料
 : 各班の植栽平面図 (素案)、合成平面図 (試案)

会議録

これまでのワークショップと同様に、開会・挨拶後、ワークショップの目的と全体スケジュール、本日の進め方について説明された。また、前回ワークショップで出された意見や各自のプランについて、振り返りが行われた。

続いて、第 2 回ワークショップの意見を踏まえて事務局が作成した各班の植栽平面図 (素案) や、景観や動物に配慮した植栽樹種、植栽密度の考え方等について資料説明がされた。その後、各班の素案を合成した合成平面図 (試案) が提示され、合成案に対して全体での討議が行われた。

討議では、市民ワークショップの意見を前提に作成された合成案に肯定的な意見が出された一方、「狭い検討範囲内でのゾーニングはそぐわない」、「ゾーニングにかかわらず全体で動物に配慮する方針を打ち出すべき」、「サクラは並木を作るより混植した方が周囲と調和するのでは」等の意見も出された。また、「パブリックコメントを実施して、広く市民の意見を聞くべき」との、検討過程についての意見も出された。

最後に、参加者の中から様々な意見が出され、これらの意見をさらに取り入れた修正案を次回ワークショップで提示する事、その後植栽計画についてパブリックコメントを実施する予定であることなど、今後のスケジュールについて連絡が行われた。

植栽計画全般

- 色彩豊かで、バリエーションをもたせる植栽計画だと思う。
- この案で良いと思いますが、「文学の小径」はかたいので「いこいの小径」だとか「四季の小径」などやわらかい方が良いと思う。
- 合成案で！但し在来種のみで構成すべき（外来種は要らない）。
- 針葉樹はあまり使って欲しくない。
- サクラを階段周辺に植える必要がわからない。周辺の景観と合わない、他のゾーンに点在させてはどうか。
- ツル類などは都市公園には必要なし、樹木にとっては害あるのみである。
- 種類にもよるが、多様性の観点からも、つる植物が少くらいあってもよい。
- 種からその場で芽吹き成長させるゾーンがない。
- 河原に最も多いヤナギが一切ないのでは、公園利用したりしても市民が郷土の木を知る機会が減ってしまうと思う。

その他

- 木に来る小動物や鳥、昆虫など動植物の解説プレートがあるとよい。
- 安全管理の面からも大木のドロノキは切ったほうがよい。
- 移植木のうちサクラ、ツリバナは公園の中にあるものから移植できないか。
- 樹木の移植は費用がかかる。減らせないか。新植を増やした方がよい。
- きちっとしたゾーニングは無理であり、具体的な樹種、花、色（四季別でも良いが）を示したほうがわかりやすい。
- ゾーン区分をした方がわかりやすい。
- 雌雄異株の種があるが、雌雄の差を考慮しているか。
- 予算はまだついていないというがすでに伐採されている木があり、その費用は市から支出されているのではないか。

動物への配慮

「動物配慮」の意識は必要だと思う。
「動物配慮ゾーン」というが、全てにおいて生態系に配慮して欲しい。
(現状維持を基本にして、管理を徹底することで対応してほしい。)
動物といっても多種多様であり、対象種を絞って案を作らないと焦点がぼけてしまう。
動物は植物と違い移動するので、ゾーンとして配慮する場所を設定できない。

検討手順

パブリックコメントも充分行われていたと思う。今回参加された方もそういった認識は充分あったと思う。
個々によって要望が違う。それを最終的に一つにまとめるのは難しい。今回ワークショップの限られた人数の中でもいろいろな考え(案)が出たのでそれをいくつか取り入れた「合成試案」で良いかと思う。
ワークショップの進め方は、今回は良いと思う。
今日までの進行に納得していない。ワークショップの今日までの案を市民・団体に提示した上で先に進むべきだと思う。
緩斜面化そのものに反対です。白紙に戻して市民の声を聞いてほしい。
あまり植物についてわからない者に対して専門家に良くないと言われると、次は何も言えなくなります。ワークショップを設置することが必要なのでしょうか？